

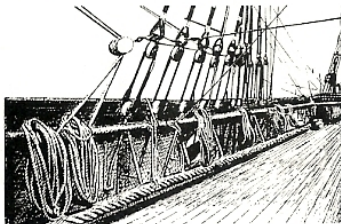
カティーサーク (Cutty Sark) は、1869年にダンバートン (Dumbarton) で進水したが、スエズ運河が開通したのもこの年である。1800年前半はヨーロッパの貿易が非常に発展した時代で、ことに支那 (今の中国) 産の茶をイギリスに運ぶための快走船、いわゆるティー・クリッパーが発達した。当時支那の各地からロンドンまでの間でクリッパー船の競走が盛んに行われ、1日の航程は平均163浬、平均速力約7ノット、状況のよい時には14ノット以上を出して帆走したと云われる。帆船の性能と運用術が極限までに発達した時代であったと云えよう。1868年にアバーディーン (Aberdeen) で進水したサーモピレー (Thermopylae) は今までのその船よりも速いと云われていたが、カティーサークはこれに打ち勝とうと云う野心のもとに建造されたのである。Cuttyとは「短く切れた」と云う意味で、Sarkは「肌着」のことである。アオシマのカティーサークは1/120の完全スケールで作り易い設計の上に、プラ製の薄い帆、船体、甲板、その他細部にわたる繊細な木彫の彫刻がモールドされた、インテリア性の高い内容の組み立てキットです。帆船の代名詞として有名なカティーサークをじっくりお楽しみ下さい。

The Cutty Sark was launched in Dumbarton, Scotland, in 1869, the year that saw the opening of the Suez Canal. The first half of the 1800s was a period when European trading grew extremely quickly, and in particular fast sailing ships, known as tea clippers, were developed for carrying Chinese tea to Britain. In those days, races between clipper ships were often carried out from the various areas of China to London, with the vessels reputedly sailing an average of 163 nautical miles a day at speeds averaging 7 knots and exceeding 14 knots in good conditions. It can be said this was the era in which the performance and sailing techniques of sailing ships were developed to their utmost limits. Although the Thermopylae, launched in Aberdeen in 1868, was reputed to be the fastest of all the vessels up to that time, the Cutty Sark was built with the ambition of beating it. A Cutty Sark is a woman's short slip as worn by the witch in a famous Scottish poem. Aoshima's Cutty Sark is a perfect 1/120 scale reproduction that has been designed to be easy to assemble. With thin sails made of plastic, the ship's hull, deck, and other detailed parts have been molded using a fine carved wood pattern to make an assembly kit that will look good in any interior. We hope you will thoroughly enjoy making the Cutty Sark as a classic representative sailing ship.

# CUTTY SARK

クリッパー船の中でも世界的に最も有名なカティーサーク(Cutty Sark)は1869年11月23日ダンバートン(Dumbarton)で進水した。しかしこの年は運命的な話ながら、スエズ運河の公開が宣言された年でもあった。このスエズ運河の開通により帆船そのものが、その地位を汽船に譲らざるを得なくなったのである。つまりそれまで喜望港を回る長い航海であったため、汽船は燃料の石炭補給の不利があり航路力が弱かった。しかしこのスエズ運河によってそれが解消したのである。その意味でもこのカティーサークは帆船黄金時代の最後を飾る船であったといえるであろう。

1800年前半ヨーロッパの貿易が非常に発展した時代、支那(今の中国)に阿片を運び、復航に支那茶をイギリスまで積んで運航する快走帆船、いわゆるティー・クリッパーが発達した。毎年季節真先に入航した船に契約金を出したため、当時支那の各地からロンドンまでの間で、クリッパー船の競走が盛んに行なわれ、1日の航海は平均63節、平均速度約7ノット、状況のよい時には11ノット以上を出して航走したと云われ、帆船の性能と運用法の極限までに達した時代であったと言えよう。それら多数のクリッパー船の中でも、その性能においても外観の美しきにして、カティーサークは最高であったといわれている。1869年にアーバーディーン(Aberdeen)で進水したサーモヒレー(Thermopylae)は今までのどの船よりも速いと言われていたが、カティーサークはこれに打ち勝つという野心のもとにスコットランド人のスコットとリントンによって建造され、あらゆる面において王女がこらされた。1870年2月16日ロンドン上海間を廻女航海し、その後

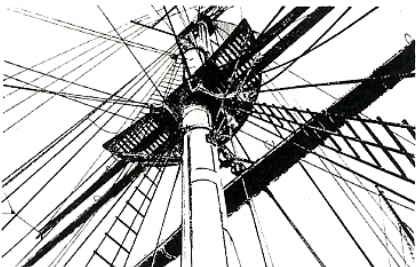


を受けたのであった。カティーサークは1879年サーモヒレーより2年早くオーストラリア向けのウールクリッパーに転身、1887年から翌年にかけてのシドニー、ロンドン間の航海で71日間を言う記録を樹立、サーモヒレーの79日間をおさえ、やっと積年の劣勢を世界に示したのである。世界で1番速い帆船としてその名を全世界にとどろかせたことはいまでも変わらない。

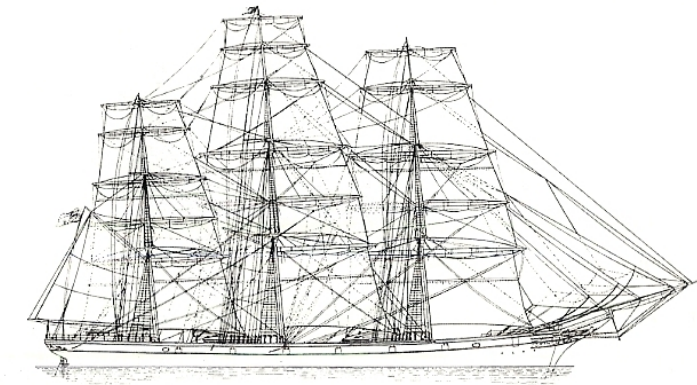
1869年の進水当時からその快進を誇っていたカティーサークも1915年頃には転売される運命となった。1936年にはチームズ航海学校の後援船として15年間活躍したが、第2次世界大戦後は不運となって国立海洋博物館に寄贈された。今では海洋史の好資料としてグリニッチのドックに保存され多くの人々に親しまれている。

カティーサークの船名は、スコットランドの詩人ロバート・バーンズの「タム・オーシャンター」という伝説による物語からとられた名前である。Cuttyとは「短く切れた」という意味で、Sarkは「尻尾」のことである。ある貧窮な娘の魂、燃える教会半の煙での魔法と悪魔の仕業を垣間見ているタムは「悪魔そのもの、のような醜い鬼魔たちの中に若く美しい魔法使いが、たまたま1枚の「カティーサーク」すなわち「麻でできた短いシュミーズ」のほかに何ひとつ身につけず数しう物乞いしたように插っているのを見て思わず叫んで「うまいぞカティーサーク。とたんにあたりは貞節になり魔法に追いかけられる。魔法使いはタムの乗る馬の尻尾をつかむが尻尾が抜けてしまう。そのおかげでタムは助かった」とい話してある。だから帆船カティーサークのフィアヘッドとは自衛りの魔法の姿をしている。帆船航海の時、水夫たちは古語をほどこして馬の尻尾をこしらえて前方にさしおいた魔法の手玉に擬らせることを常にしたということである。

当社のブラホビーキット「カティーサーク」は保存されている実物と資料により忠実に再現され精密かつ作り易いインテリア性の高いキットです。



数々の驚異的な記録をうちたてた。そしてついに1872年に前敵サーモヒレーとの対決を向えるわけである。このとき中国のウーソン出帆後26日目で100マイルも先行していたカティーサークは、強風のため舵をこわすというアクシデントに見舞われ、復讐で航続したものの遅にサーモヒレーに1週間も差をつけられてロンドンに入港した。負けしたものの非常に賞賛



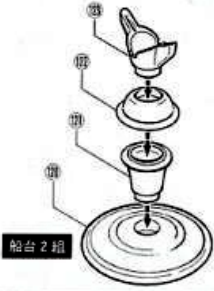
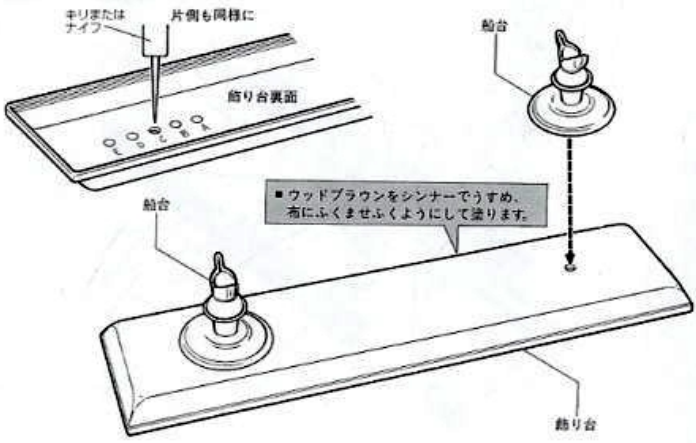
ホワイト (白)	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">1</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">1</span>	船体・マスト・ボート等に使用
ブラック (黒)	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">2</span>	船体・ヤード・ポンプ等に使用
レッド (赤)	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">3</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">3</span>	舷側灯 (左舷) に使用
グリーン (緑)	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">6</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">6</span>	舷側灯 (右舷) に使用
ブラウン (茶)	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">7</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">7</span>	手スリ・船体ラインに使用
ゴールド (金)	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">9</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">9</span>	船台・小部品等に使用
銅	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">10</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">10</span>	船体 (ウォーターライン下部) に使用
フラットベース (つや消し剤)	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">40</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">30</span>	ホワイトまたはブラックに加えて使用
マホガニー	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">84</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">42</span>	ブリッジ等に使用
ウッドブラウン	—————	H <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">37</span>	H <span style="background-color: black; color: white; padding: 0 2px;">43</span>	甲板・飾り台等に使用

※  部分は塗装指示です。こげ茶はブラックとブラウンを1：4、半つや消しとはホワイトまたはブラックとフラットベースを4：1の割合で混ぜたものです。



# STEP 1 SEARCH

- まず最初に右図のように①の部分に穴を開けて下さい。(キリ、ナイフ等で簡単に開きます。)
- 船台を組立て飾り台と接着して下さい。

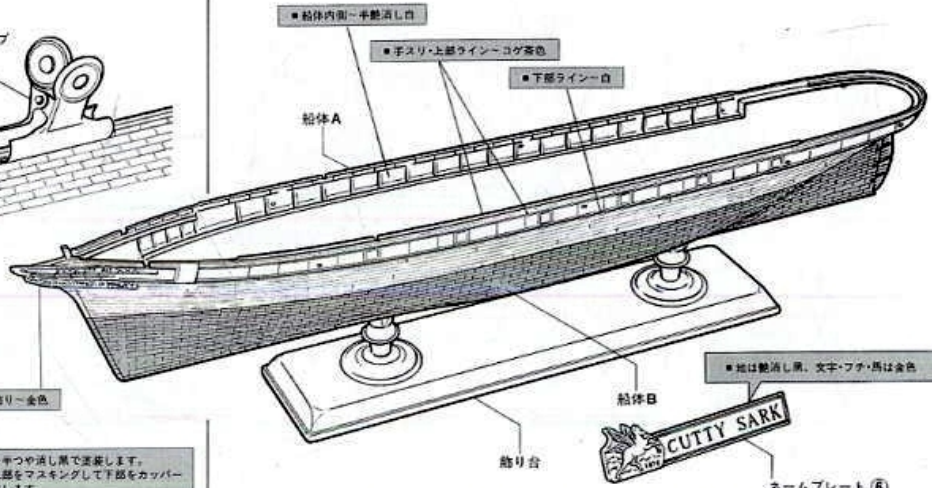
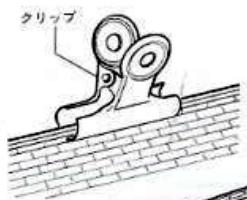


船台2組

- 飾り台-ウッドブラウン
- 船台-金色

## 2 《船体の組立》

- 船体A、Bを接着して下さい。(船体両側に接着剤をつけ、クリップ等を使って、しっかりと接着して下さい。)

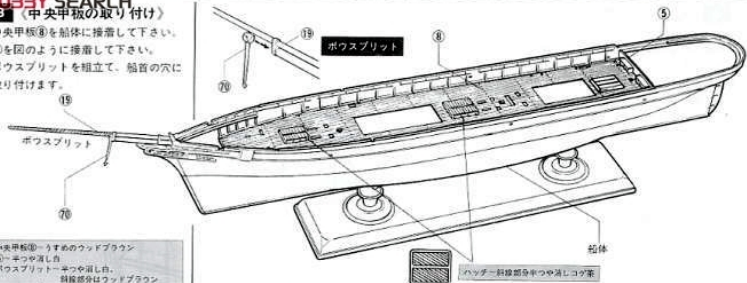


■船首飾り-金色

- 船体-全体を半つや消し黒で塗装します。次に上部をマスキングして下部をカバーで塗装します。

3 〈中央甲板の取り付け〉

- 中央甲板⑧を船体に接着して下さい。
- ⑤を同のように接着して下さい。
- ボウスプリットを組立て、船首の穴に取り付けます。

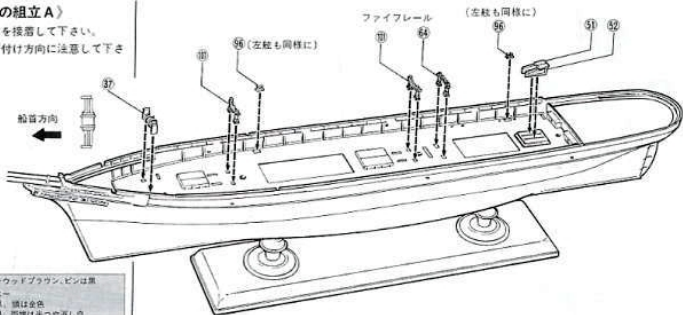


- 中央甲板⑧・うすめのウッドブラウン
- ⑤⑧-キツや濁し白
- ボウスプリット⑩-キツや濁し白、  
前後部分はウッドブラウン

ハッチー前後部分キツや濁しコゲ茶

4 〈甲板の組立A〉

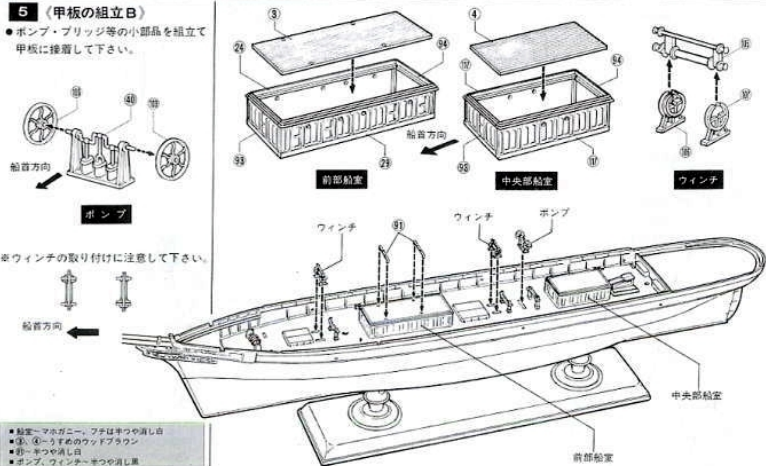
- 甲板に各部品を接着して下さい。
- ※各部品の取り付け方向に注意して下さい。



- ファイアレール-ウッドブラウン、ピンは黒
- ⑤⑧-キツや濁し黒、又は金色
- ⑤⑧-キツや濁し黒、両端はキツや濁し白

5 〈甲板の組立B〉

- ポンプ・ブリッジ等の小部品を組立て甲板に接着して下さい。



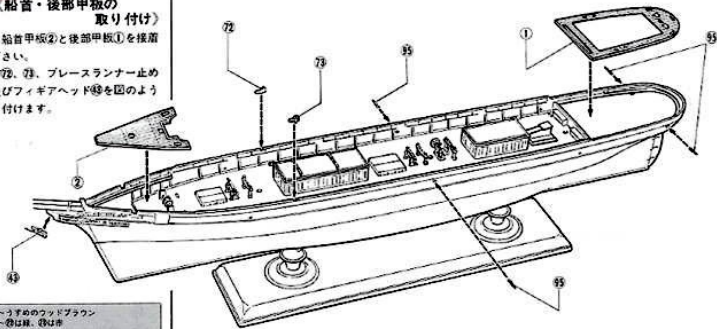
- ※ウィンチの取り付けに注意して下さい。



- 船室-マホガニー、フチはキツや濁し白
- ⑤⑧-うすめのウッドブラウン
- ⑤⑧-キツや濁し白
- ポンプ、ウィンチ-キツや濁し黒

6 <船首・後部甲板の  
取り付け>

- 船体に船首甲板②と後部甲板①を接着して下さい。
- 舷側灯⑦、⑧、ブレースランナー止め棒、及びフィギアヘッド⑨を図のように取り付けます。

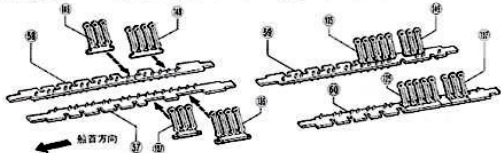


- ①、②→3mmのウッドブック
- 舷側灯⑦⑧は紙、⑨は木
- 棒→ネツや差し棒
- フィギアヘッド⑨→白

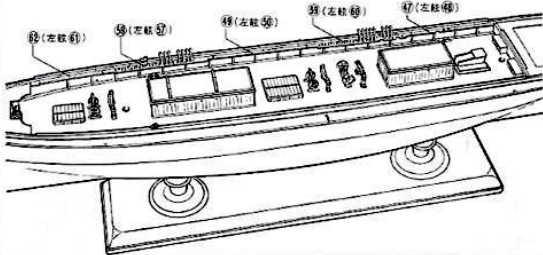
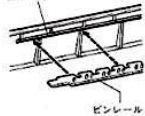
7 <ビンレールの取り付け>

※滑車及びビンレールの取り付け方向をまちがえないよう気をつけて下さい。

- ビンレールに滑車を接着して下さい。
- 船体内側のミゾにビンレールを接着して下さい。
- 図のように右舷を組立て、左舷も同様に取り付けて下さい。



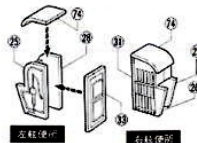
船体内側のミゾ



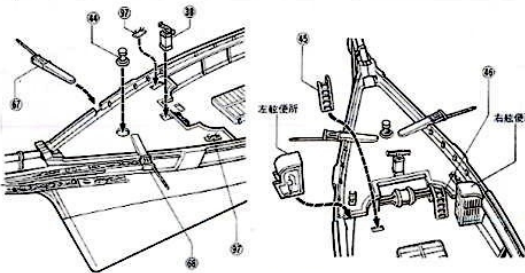
- ビンレール→マホガニー、ピンは黒
- 滑車→ネツや差し棒

8 <船首甲板の組立>

- まず下図のように左右の便所を組立ます。
- 図のように各部品を接着して船首甲板を組立して下さい。

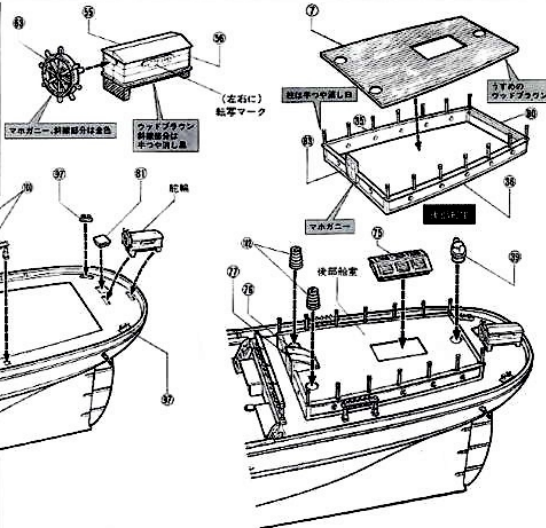


- ①、②、③、④→ネツや差し棒
- ⑤→ネツや差し棒、上層と下層はネツや差し棒
- 便所→ネツや差し棒
- はし→ウッドブック



9 (後部甲板の組立)

- 舵輪及び後部給室を組立て下さい。
- 図のように各部品を採着した後部甲板を組立ます。



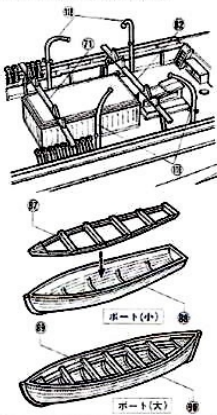
(左右に) 転写マーク  
マホガニー、斜線部分金色  
ウッドブラウン  
斜線部分  
キツツ消し具

お好みの  
ウッドブラウン  
お好みの  
マホガニー

- 内、外側-ウッドブラウン
- 内-キツツ消しブラウン
- 内-キツツ消し具
- 内-1層底はキツツ消し具、下部マホガニー
- 内-キツツ消し具、金色
- マホガニー
- 内-金色、下部はキツツ消し具

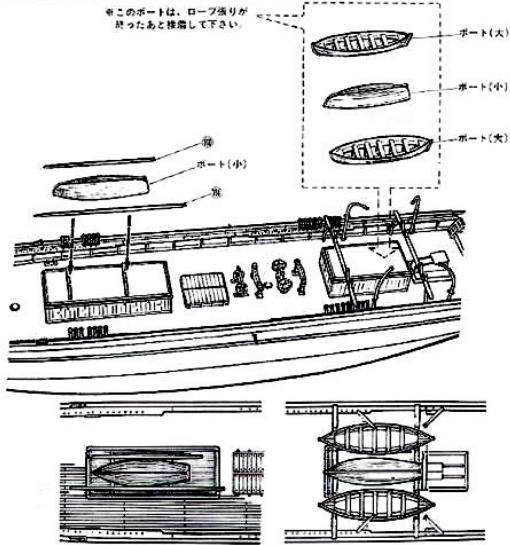
10 (ボート及びボートダビットの組立)

- 下図のようにボートダビットを組立ます。
- ボート(大)、(小)を組立ます。



- 内、外側-キツツ消し具
- 内-ウッドブラウン
- ボート-外側キツツ消し具、内側キツツ消しブラウン、斜線部分キツツ消し具
- 内-ウッドブラウン

※このボートは、ロープ張りが終わったあと採着して下さい。

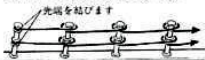




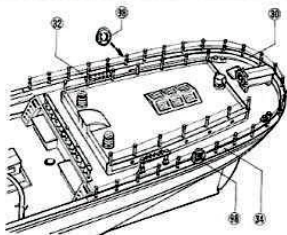
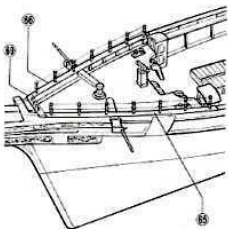
## HOBBY SEARCH

### 11 〈手スリの取り付け〉

- 図のように船首、後部に手スリを接着して下さい。
- 下図のようにミシン糸を使って手スリの柱及び後部船室の柱に糸を張って下さい。
- 後部手スリに巻を接着して下さい。

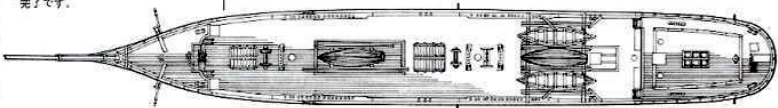


- 手スリ—コガ茶、柱は半つや消し白
- 巻—コガ茶、ピンは黒
- 糸—半つや消し白、斜線部分は黒



### 12 〈甲板完成〉

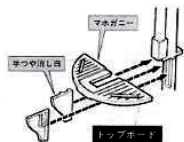
- 以上でマストを除いて甲板部の組立は完了です。



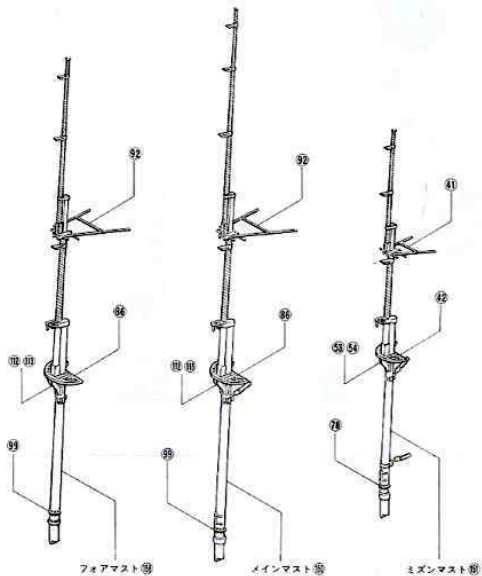
- 部品の見落とし、塗り残しはないか、もう一度確かめて下さい。

### 13 〈マストの組立〉

- 図のようにして組立ます。



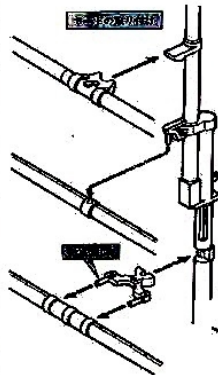
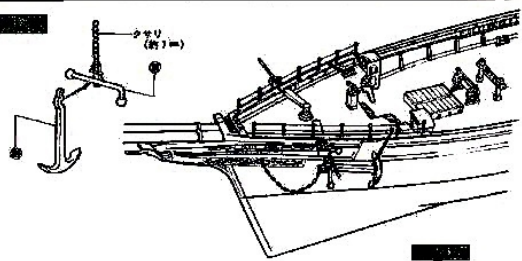
- マスト—半つや消し白、斜線部分はウッドブラウン





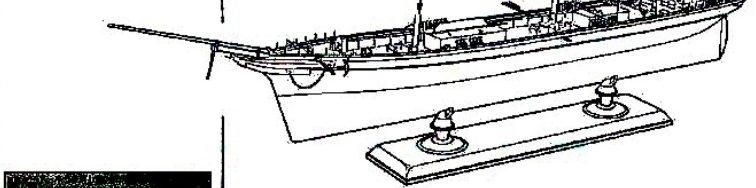
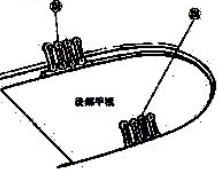
10 **SEARCH**  
マスト及びイカリの  
取り付け

●右図のようにイカリを組立て、細ロープを使って船体に取り付けます。  
●マストにヤードを仮着して下さい。



●甲板の穴にマストをさし込み接着して下さい。船首側からフォア、メイン、ミズンマストの順です。

●下図のように後部甲板裏面のミゾに滑車(10)を挿入して下さい。



〈ロープ張り〉

●ロープの結び方は、別紙のホビーマニュアル プラ模型編を参考にしてください。

●帆船のロープ張りに必要な道具です。



①クリップ



②細鋭挿貫針



③ピンセット



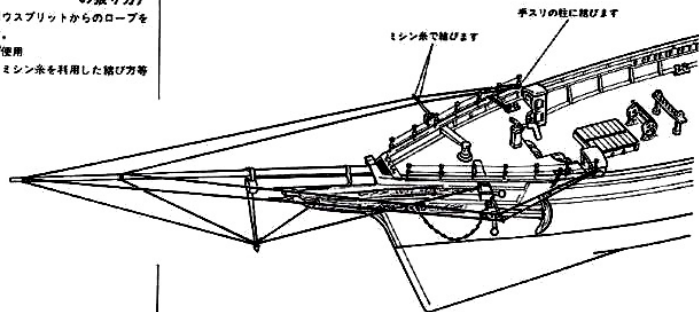
④ハサミ

15 〈ボウスピットロープの張り方〉

●まず、ボウスピットからのロープを張ります。

●太ロープ使用

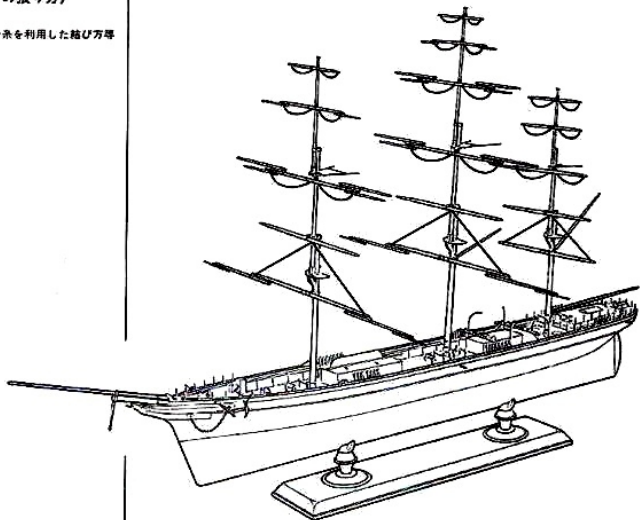
●巻結び、ミシン糸を利用した結び方等を使用。



16 〈リフトの張り方〉

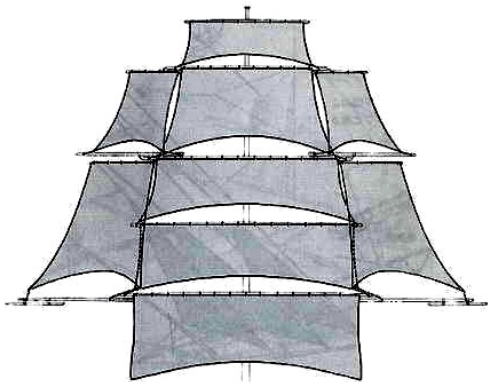
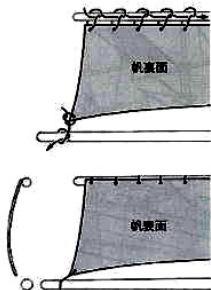
●細ロープ使用

●巻結び、ミシン糸を利用した結び方等を使用。

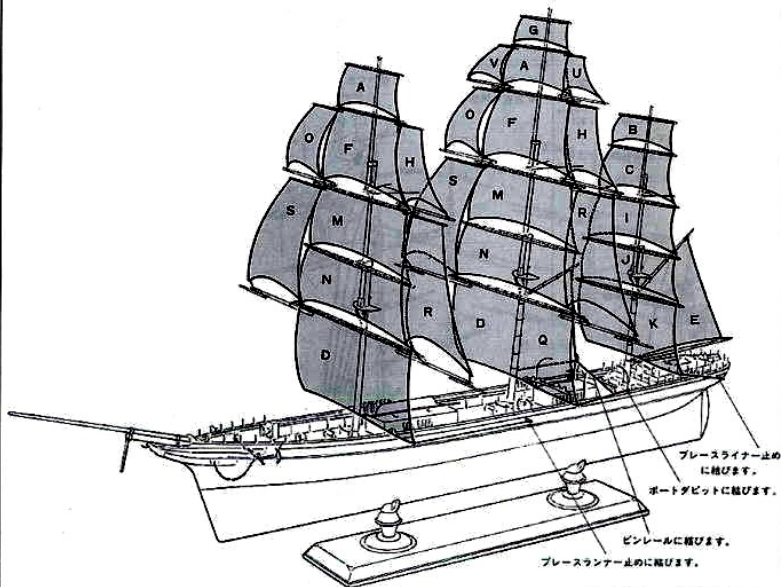


17 (帆の張り方)

- ピンバイス等で帆に穴を開けます。
- 細ロープを従って、図のように巻くようにして張って下さい。



フォアマストの場合



ブレースライナー止めに結びます。  
ポートダビットに結びます。

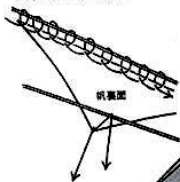
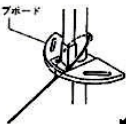
ピンレールに結びます。  
ブレースライナー止めに結びます。

※右舷も同様にロープを張って下さい。

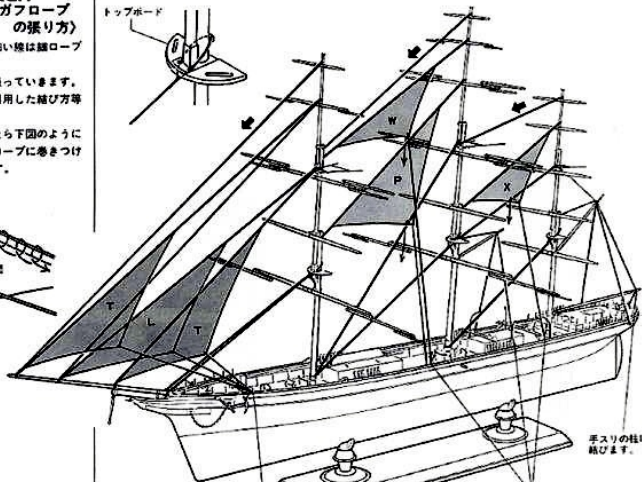
## 18 &lt;クリギン及びガフロープの張り方&gt;

- 太い線は太ロープ、細い線は細ロープ使用。
- 船首側から順序よく張っていきます。
- 巻結び、ミシン糸を利用した結び方等を使用。
- ロープを張り終わったら下図のように細ロープを使って太ロープに巻きつけて帆を張っていきます。

トップボード



帆裏面



左右の手スリの柱に結びます。

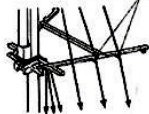
手スリの柱に結びます。

左右のピンレールに結びます。

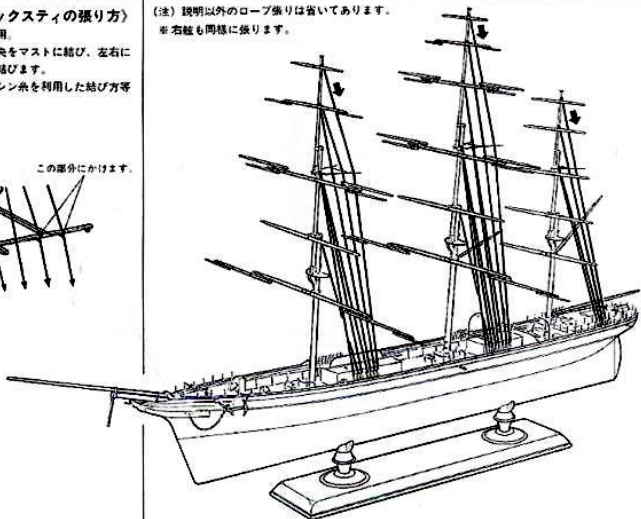
## 19 &lt;バックスティの張り方&gt;

- 太ロープ使用。
- ロープの中央をマストに結び、左右に分け滑車に結びます。
- 巻結び、ミシン糸を利用した結び方等を使用。

この部分にかけます。



(注) 説明以外のロープ張りは省いてあります。  
※ 右舷も同様に張ります。



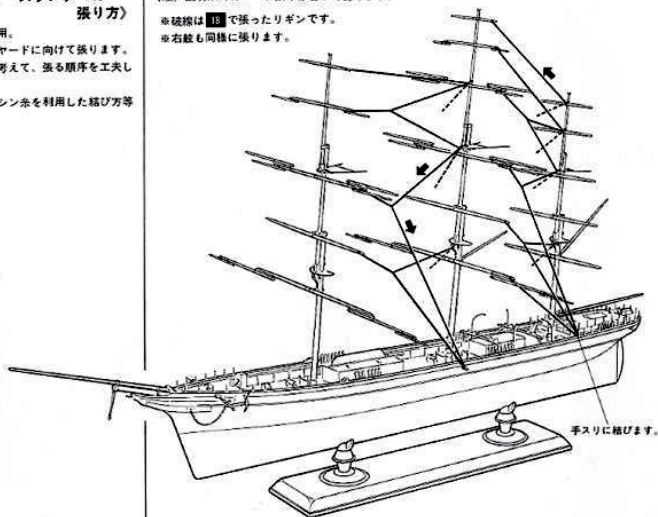


張り方

- 細ロープ使用。
- リギンからヤードに向けて張ります。
- 張り易さを考えて、張る順序を工夫して下さい。
- 巻結び、ミシン糸を利用した結び方等を使用。

(注) 説明以外のロープ張りは省いてあります。

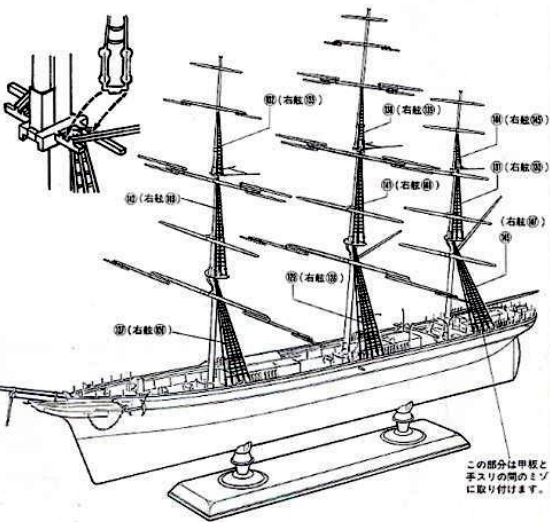
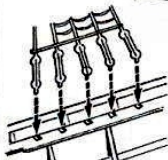
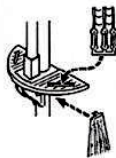
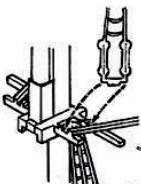
- ※破線は 16 で張ったリギンです。
- ※右舷も同様に張ります。



21 <縄ばしごの取り付け>

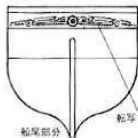
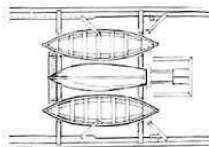
- 図のように縄ばしごを挿着して下さい。
- ロープの張り具合によって下部の縄ばしごが長すぎる場合があるので、先端をナイフ等で削って調整して下さい。

※左右をまちがえないように慎重に取り付けて下さい。



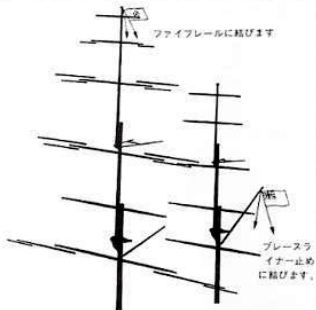
この部分は甲板と手スリの間のミゾに取り付けます。

- 図のようにボートを取り付けて下さい。
- 船尾部に転写マークを貼って下さい。
- ミシン糸を通して旗を取り付けて完成です。



船尾部分

転写マーク



ファイブレールに結びます

プレースライナー止めに結びます。

※残りの細ロープを使ってロープの束を作り、ピンレール等かけるとよりスケール感が増します。



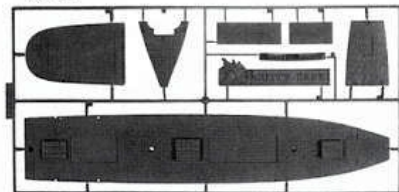
▶船体A



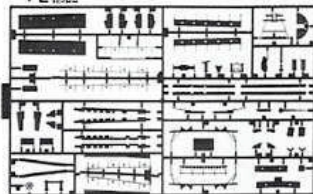
▶船体B



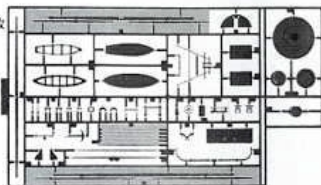
▼C部品



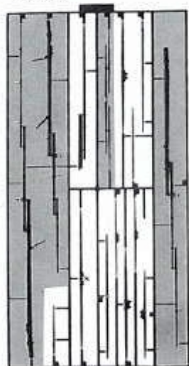
▼E部品



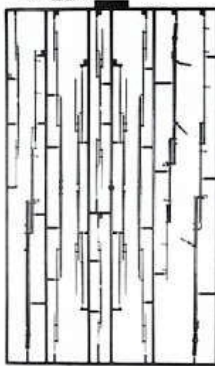
▼F部品 2枚



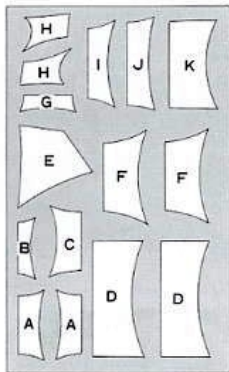
▼D部品



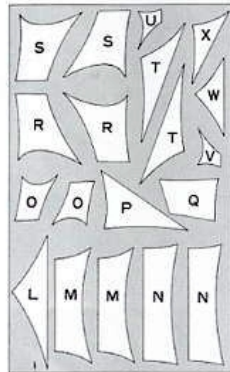
▼H部品



▼帆部品(A)



▼帆部品(B)



▼G部品



▼鏡り台



品名	数量
太ロープ	1巻
細ロープ	1巻
旗	1枚
転写マーク	1枚
イカリ用鎖	1本

※取扱説明は別にお買い求め下さい。  
 ※ミシン糸(黒)は別にお買い求め下さい。  
 ネットには含まれておりません。